

愛知県、24年度予算案 2.7兆円 スタートアップ支援倍増



愛知県は9日、一般会計の総額が2兆7949億円となる2024年度予算案を発表した。23年度当初予算比で5.8%減と6年ぶりの減少。新型コロナウイルス対策の関連費用が大幅に減った。10月に開業する新興育成拠点「ステーションAi」の整備費など、スタートアップ支援関連は128億円に倍増させた。人口減少の抑制に向け、少子化対策は2割増の154億円を計上した。

19日開会の県議会に提出する。大村秀章知事は9日の記者会見で「アフターコロナは人づくりだ。ジブリパークやステーションAiなどで世界中から最先端の技術や人材を呼び込みたい」と強調した。

23年5月に感染症法上の位置づけが5類に移行した新型コロナの対策費は47億円で、23年度当初予算の2585億円から大幅に減らした。新型コロナ関連をのぞくと、23年度当初予算比で3.1%増えた。好調な企業業績を受け、24年度の県税収入は法人二税（法人県民税、法人事業税）が4380億円で、23年度当初比で10%増を見込む。

スタートアップ支援などは23年度当初の62億円から倍増させ、イノベーションを創出するエコシステム（生態系）の形成をめざす。ステーションAiの整備費やスタートアップの誘致、開業イベントなどに計108億円を充てる。海外の支援機関や大学との連携事業などに7億円、創業したばかりのスタートアップを対象にしたコンテストの開催などに3億円を配分する。

愛知県の24年度予算案のポイント

▼スタートアップ支援	
ステーションAiの整備・運営	108億円
海外の新興支援との連携	7.4
▼次世代産業の育成	
自動運転の社会実装	2.7
次世代バッテリー推進事業費	0.25
▼カーボンニュートラル	
水素の社会実装の推進	5.2
FCトラックなど物流脱炭素化	0.34
▼子ども・教育関連	
少子化対策	154
中高一貫校など県立高校再編	106
▼災害対策	
基幹的広域防災拠点の整備	45

防災関連では県営名古屋空港(豊山町)の近くで、支援物資などの輸送拠点となる「基幹的広域防災拠点」の整備に45億円を投じる。大村知事は「南海トラフ地震を念頭に、対策をしっかりとしなければならない」と語った。

少子化対策では結婚支援を拡充する。23年度に開いた400人規模の婚活イベントを24年度も開催するほか、人工知能(AI)によるマッチングシステムを使ったオンライン結婚支援センターを開設する。

中小企業の支援関連では、繊維業が盛んな愛知県で生産された生地をPRするため、25年度に開催するファッションショーの準備などに2900万円をつけた。25年7月に開業する愛知県新体育館「IGアリーナ」での開催を検討する。IGアリーナの整備には257億円を盛り込んだ。

県は脱炭素燃料として水素の活用を推進しており、24年度予算案に関連費用を計上する。工場の脱炭素化に向け、県の常滑窯業試験場(常滑市)に企業が試験利用できる水素燃料の工業炉を整備する。物流での燃料電池(FC)トラックの普及に向け、荷主や運輸事業者などとの協議会を設置する。